

「僕の家族は銃で撃たれて殺されたんだ。トラックに積まれた食料を受け取っている最中に。僕も何度も戦闘に巻き込まれながら、ここまで逃げて来た。僕の祖国にはもう、争い以外何も無い」そう語る少年の顔は暗い孤独な陰に縁取られていました。

ここはケニアのイスリー地区、ここにはたくさんのソマリア難民がくらし、彼もその1人です。彼の家族は支援物資を狙った武装勢力に殺されました。幸い彼は、難民キャンプにたどり着くことができました。しかしながら、キャンプの難民はソマリアから逃げる事のできた人達の一部にすぎません。彼らの祖国ソマリアでは現在でも逃げる事のできなかつた人達が紛争や飢餓から苦しんでいるのです。罪の無い人々が、毎日戦闘に巻き込まれ、飢餓にあえぎ、命を落としています。なぜ我々と、彼らの生活にここまで違いがあるのでしょうか？違いがあっていいのでしょうか！

人間の「生きたい！」という強い思い！人間は生きていだけで価値あるものなのです。その命が、簡単に、儚く散っていいのでしょうか！

環境によって仕方なく死ぬことなど、許されていいのでしょうか！

否、断じて許されるべきではありません。

だからこそ私は人々の基本的な安全さえ守られていない事実に激しい怒りを感じるのです、そして世界で生きる事それだけに苦しむ人々のために安全な社会を実現したいのです。

飢餓や内戦、テロリズムはソマリアの日常です。ソマリアにおけるそもそもの問題性として、政府が全く機能していない事が挙げられます。ソマリアはほとんどがソマリ人で構成される単一民族国家です。しかし、氏族内のつながりを重視するソマリアにおいて、氏族間の領土・権力対立が激化し、紛争が発生しています。この戦国時代とも形容される紛争によって統一政府を樹立出来なかったのです。しかし昨今、政府樹立の動きが活発化し、ソマリア全土での民主選挙の導入も視野に入れられてはいますが、民主選挙は実施には至っていません。

また、ソマリアにおける貧困は、世界でも最悪レベルの状態となっています。なぜなら、自国の主要産業である農業や水産業が破壊され国内で食料を生産出来ていないからです。もともと農業は主に国内の食料を提供し、漁獲された魚は主に輸出され外貨獲得に使われていました。しかしこれらの産業からもたらされる食料が完璧に無くなったことにより、大規模な食料不足が引き起こされています。また、他国からの支援が強奪されているため民衆にまで行き届いていません。事実、過去に提供された物資のうち約4分の1しか民衆に届いていませんでした。結果、ソマリアの飢餓問題は世界でも最も厳しく、国際協力NGOセンターの発表によると、現在約400万人が飢餓に直面しています。これは、ソマリア人口の半数以上にあたります。また、乳児の栄養失調による死亡率は36%と世界的にも最悪レベルです。

では、なぜこのような現状が起きてしまうのでしょうか。ソマリアの様々な現状に対する最大の問題はただ一つ！ それこそが、テロ組織の存在です！

現状の氏族間での政府樹立の動きが活発化し、民主選挙の導入も予定されているにもかかわらず、統一政府が樹立されていないのはこのテロ組織が選挙活動を妨害しているからなのです。事実、ソマリア政府の上院議員選挙はテロの恐れがあるため行うことができていません。

また、ソマリア国内で大規模な食料不足を引き起こしている産業設備の破壊もテロ組織によって行われています。事実、100以上あった漁業基地は全て破壊され農地は燃やされてしまいました。

そして、テロ組織は国際社会からの支援を妨害し、支援物資を強奪しています。加えて、食料や医薬品の倉庫を燃やしたという事例もあります。事実、1993年3月に国連が「平和執行」と呼ばれる強制介入の権限を認めた部隊の派遣を決定しました。また、国境なき医師団も活動を行っていました。しかしいずれもテロ組織からの極度の攻撃により撤退しました。

ではなぜ、テロ組織はソマリア国内で破壊活動をおこなっているのでしょうか？

このイスラム系テロ組織の主な目的は若者をテロ組織に勧誘し引き入れることです。ではなぜ彼らの多くはテロ組織に身を投じてしまうのでしょうか？それは貧しさのあまりテロ活動に走らざるを得ない人々がいるからです。彼らの多くは一日5ドル以下の生活を送っており、テロ組織から支払われる報奨金は100ドル以上でこの金額は非常に魅力的です。そのため、テロの担い手を多く確保できる今の状況を維持することを目的に支援や経済活動への破壊活動を行っているのです。

では、どうやってこれらの問題を解決すればよいのか？

そこで私から2点の政策を提示します。

1点目は、テロ組織の

2点目は、天然資源の活用

まずはじめに1点目のテロ組織の撲滅について述べさせていただきます。

ソマリアのテロ組織の主な資金源はケニアでの象牙の密売です。約5000人の兵士の手当の大半は象牙の密売によってまかなわれています。しかしながら、密猟対策は現地の小規模で十分な装備の無いレンジャーのみが行っているためあまり効果がありません。そこで、象牙の密売をソマリアの近隣諸国で構成されるアフリカ連合軍が取り締まることによってテロ組織の資金源を断ち組織の弱体化を行います。この政策はカダフィ政権からの支援を断たれ、隣国エチオピア軍との戦闘で大きな損害を受けテロ組織が弱体化した今だからこそ有効性を発揮するのです。

この政策によってテロ活動が停止すれば国内で選挙を行うことができ、結果統一政府を樹立することができます。

次に、2点目の天然資源の活用について

この政策におきましては、テロ活動の停止と統一政府の樹立が前提条件となります。

テロ組織という支援を阻害していた障害を取り除いた後、ソマリアに存在する水産資源と石油・天然ガスを活用します。ソマリアの海は「アフリカのアマゾン」と称され豊かな漁場が広がっています。事実、現在ソマリア沖では、外国漁船による漁が行われており、年間30億ドルを超える漁獲高があります。また、ソマリアの石油・天然ガスは眠る宝と称され100億から1000億ドル分の石油が存在します。事実、ソマリア北部の比較的治安の安定した地域では既に外国企業の間で採掘権の争奪戦が繰り広げられています。

そこで、国営の石油会社、水産会社の設立を提案します。これらの国営会社は利益が人々に平等に分配されるように管理し、収入格差による不満を無くします。具体的には国営企業が国内のインフラ整備を均等に行い雇用を作り出します。天然資源の利益の再分配は実際に無数の部族が存在するサウジアラビアでも行われておりすべての人々がこの利益を享受しているため治安が安定しています。しかし、現在のソマリアにこれらの産業を発展させる技術力は無いため、日本を含む先進国からの技術提供を行います。提供される技術は国営企業が管理するため技術流出のリスクが少なく先進国としても容易に提供できるというメリットがあります。この技術支援は日本も積極的に行わなければいけません。なぜなら、日本は発達した水産技術を有し、石油・天然ガスの採掘支援を行う事で将来安定したエネルギーの輸入先を作ることができるからです。

この経済発展は人々を貧困から救い、貧困層のテロ組織流入を防ぐ事ができます。なぜなら、世界の主な産油国の人々の平均月収は1000ドル以上とテロ組織が支払うそれより多いからです。

国際社会から失敗国家の烙印を押され、国際社会から見捨てられた国、ソマリア。我々はそれを無視して、もうだめだとあきらめてよいのでしょうか？

同じ人間としてこれはもう他人事ではありません。誰もが死の危険におびえることなく安全に暮らせる、そんな素敵な社会の実現を、みんなで考えていこうではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。